

# 比較明合成⑤ 都市夜景と星空

比較明合成が特に威力を発揮するのは、明るく美しい都市夜景とともに星空を写す場合です。かつてのフィルム時代には不可能だった作品を得ることができます。



→記録時間2時間

## 新宿の都庁ビルと北天の日周運動を撮る

都庁に隣接する新宿中央公園から都庁ビル、そして北極星周辺の星空の日周運動を狙いました。都市夜景などの明るい場所で星空を撮る場合、地上と夜空の露出差が大きく、かつては一緒に写すことはできませんでした。しかし、それを可能にしたのが比較明合成です。露出を都市夜景に合わせて撮影しますが、星を写すには露出が足りず、わずかにしか写りません。これを比較明合成することで星数が増え、都市夜景と星の軌跡を一緒に写し出すことができます。

都市星景写真では、普段から美しい都市夜景が見られるポイントを探しておくことが重要で、昼間のロケハンが大切になります。また方角や北極星の位置のチェックもしておきましょう。夜になってはじめて明るい街灯に気がつくこともあります。ゴーストの出にくいレンズなら、そうしたときでも心強いです。

### DATA

- ▶カメラ Canon EOS 5Ds
- ▶レンズ SIGMA 20mm F1.4 DG HSM
- ▶焦点距離 20mm ▶撮影モード マニュアル
- ▶絞り F4 ▶シャッター速度 8秒 ▶記録時間 2時間
- ▶ISO 200 ▶WB マニュアル

### POINT

- ・昼間のうちにロケハンしておく
- ・北極星の位置をあらかじめ確認しておく
- ・ゴーストの出にくいレンズがあると安心

[撮影地・日時] 東京都・2016.2・23:41

# 比較明合成⑥ 東京駅と夏の大三角

魚眼レンズを使って東京駅を取り込み、比較明合成で夏の大三角を撮りました。魚眼ならではの画角と、星の軌跡の表現を楽しむことができます。



→記録時間2時間

## 魚眼レンズで東京駅と夏の大三角を撮る

東京駅丸の内口から、東京駅舎と天頂に登りつめた夏の大三角を、対角線魚眼で捉えました。魚眼レンズによる写真は、非常に広い範囲が写ることに加え、直線が曲線に写ることから、画面構成が難しいものです。しかし星空の撮影では、その画角の広さが有効に働くことが多く、また画面周辺部でも星座の形が歪みにくいことから、愛用者も多いです。ただし、その画角の広さゆえ、余分なものが画面に写り込みやすいので要注意です。特に画面の四隅には気をつけましょう。また、一般的に魚眼レンズはマニュアルフォーカスでのピント合わせが難しいのですが、都市夜景の場合は、遠くのビルを用いればピント合わせが楽になります。

撮影時刻によって星空の様子が変わるのは、野山での撮影でも都市星景写真でも同じです。早い時間帯に撮影すると、飛行機や遊覧ヘリの通過のために、その軌跡が数多く写り込みます。それらの要素をアクセントと捉えてもよいですし、じゃまなら夜中過ぎの時間帯に撮影しましょう。

### DATA

- ▶カメラ Canon EOS 5Ds
- ▶レンズ Canon EF8-15mm F4L フィッシュアイ USM
- ▶焦点距離 15mm ▶撮影モード マニュアル
- ▶絞り F4 ▶シャッター速度 8秒 ▶記録時間 2時間
- ▶ISO 200 ▶WB マニュアル

### POINT

- ・魚眼レンズは星空撮影で有効に利用できる
- ・魚眼レンズは不要な写り込みに注意が必要
- ・ピント合わせは遠くのビルを利用する

[撮影地・日時] 東京都・2016.7・21:01